

日中友好新聞

京都府連版

第332号

日中友好協会京都府連合会

〒602-8026 京都市上京区新町通丸太町上ル
TEL&FAX 075-256-2764 nichukyoto.com

機関紙会館ビル302号
info@nichukyoto.gr.jp



京都府連 & 宇治支部 春節のつどいに参加して

来住 徳郎



日中京都府連宇治支部主催の二〇二四年春節のつどいに、二月十七日参加しました。会場は森野集会所。ご存じない方もおられると思うので説明しますと、四条大丸を南へ下がった仏光寺を東へ行った処にあります。私は初めてだったので、地図を頼りに行きました。司会は宇治支部の石田さん。ライブ配信での中国人歌手蔡若楠さんの歌で始まりました。東京からのライブだそうで、私は時代も変わったなあと驚きました。

乾杯の後に、所せましと並べられた料理を食べながら歓談しました。メインは井手啓二先生の新疆ウイグル地区訪問の報告でした。井手先生は二度目の新疆ウイグル地区訪問だそうです。広大な大地(日本の約4倍、人口200万人)と、現地の優しい人達との交流、カラクル湖を囲む絶景の数々、どれもが素晴らしく、心洗われる決定的瞬間だったそうです。印象に残ったのは、先生の軽妙な語り口の中の、現中国の鋭い分析です。中国政府は新疆ウイグル自治区に同化政策を進めているそうです。その成否に将来がかかっていると言われました。一般的なマスコミの報道による中国の話とは異なり、展望を持てるお話で、ぜひ多くの人に聞いてもらいたい報告でした。

※集合写真は帰り際に来住さん撮影。

春節のつどい (大山崎町・長岡京市)

好天に恵まれた12日午後、九人が集まり、ワイワイと楽しいひとときを過ごしました。

「中国の経済はどうなるのか気になる!」「ミャンマーなど、国境問題への中国の対応は?」「今の日本の状況こそが心配」等、大きな話題と共に、「アフガニスタンで井戸を掘り続けた中村さんは素晴らしいが、その国の人がもっと頑張らなければ」「漢詩や詩吟の師匠だった母のこと、もっと知っていたら・・・」「中国で戦死した父のために、もう一度中国の地を訪ねたいが・・・」などの話も。頭の体操もしました。よく知っている日本語でも中国語では違った意味にもなる。例えば「娘」「老婆」などなど。中国語を知らない方からの解答は???うーん、意味も、関係も深いなど納得でした。

中国経済の実態、状況も報告され、うまくいっていない問題点の解決には、「農村と都市の戸籍の差を無くす、地方政府は土地依存財政からの脱却を目指す、年金引き上げなど更なる生活の向上」など基本的な経済安定策がまず先決ではと、専門的な意見も出されました。なかなか大変な実情と共に、一部の中国人たちの優雅な生活実態も紹介されました。

最後はやはりわが町の話題でお開き。色々な意見交換ができ、良かったです。

(いで よしこ)



Oさんが、自作のお花を添えて下さいました。

楽しかった「春節のつどい」

二月十七日（土）三時から仏光寺柳馬場下る森野集会所で、二〇二四年、春節のつどいが開催されました。今年のつどいは、京都府連合会と宇治支部の共催となりました。会場となった森野集会所は四条河原町からも近い京都の街中にあります。

元呉服屋さんであった森野様がお店兼ご自宅を改装し、現在は合唱の練習や集会に使用されています。

オープニングは現在、東京在住の中国人ミュージシャン蔡若楠さんにオンラインで玉置浩二さんの歌を歌っていただきました。蔡若楠さんは、上海で音楽活動をし、現在は勉強のため日本に来ています。

日中友好協会京都府連合会のインスタグラムをよく見てくれていて、メッセージをいただきやり取りが続いています。今回、春節のつどいがあることを紹介し、オンラインで歌うことを依頼したところ快諾していただきました。蔡若楠さんの歌はYouTubeでも聞けますので、是非検索して聞いてあげてください。癒される歌声です。



蔡若楠さん（You Tube から）

その後、斎藤理事長の乾杯で食事タイムに入りました。清水さん差し入れのイタリア発泡ワイン、山本さん差し入れの焼酎、向田事務局長の手作りおでん、森野さん手作りのから揚げなどをいただきました。ら歓談しました。向田事務局長からは男性陣にバラエティンチョコレートのプレゼントもありました。

メインイベントは、井手啓二京都府連合会顧問からの「新疆ウイグル自治区の訪問報告と最近の中国」のお話しです。新疆へは今まで訪問されているので、その変化やガイドさんのこと、人民中国に掲載されたことなどにも触れられました。お話しは、中国問題に終わらず、ロシア、ウクライナの問題、アメリカ、日本の経済にまで話が及びました。質問も多数出て、一つ一つ丁寧に答えられ、盛り上がる中で終了時間となりました。予定時間を大幅に超えていることに気づかないほど、あつという間の楽しい時間でした。（石田）

平和友好五団体

四年ぶり△春節▽晩宴

交流の復活を喜び、友好運動での協力を深めよう

新型コロナウイルス・パンデミックによる犠牲者を世界保健機関（WHO）は1500万人と推計しています。猖獗を極めるウイルスに人々が翻弄されている間に、一人ひとりを取り巻く環境も世界情勢の様相も大きく変化しました。ウクライナの東部の戦線では小説『西部戦線異状なし』さながらの塹壕戦が続いています。イスラエルによるガザへの武力侵攻は均衡報復のレベルをはるかに超えてジェノサイドに近づいています。こんなことが数年後に起こることを人々はコロナ前に予想しえたでしょうか。罹患

の不安におびえながら何回かワクチン接種に赴く間に、漸くコロナ禍も小康を得て周囲の様子を窺うと、親しい人が亡くなっていたり、後遺症に悩まされていたり。

そんな中でも平和友好五団体は久しぶりに春節の宴に集いました。旧正月を祝う習慣のある韓国、ベトナム、タイなどでも賑やかな行事が復活したようです。中国でも春節の間の国内旅行者数は四億七千万人、出入国者は三千百五十万人に及ぶ。長いロック・ダウン生活を終えて、自由に東西南北へと旅立つ中国市民の高揚感までほうふつとします。

日中から宇野木洋さんの挨拶と乾杯の音頭で春節晩宴は始まりました。一渡り五団体の挨拶があり、日ユの吉田尚さんは昨年十一月の「ウクライナに平和を！カテリーナ・コンサート」の成功のために協力した四団体に感謝を表明し、これからもこの態勢で平和イベントでの協力をすすめたいと述べました。日朝の福谷忠行さん、AALAの辻崎忠由さんもそれぞれがすすめる課題と、五団体の協力について語りました。日ベトを代表して挨拶した富田秀信さんは、引き続き二十分ほど、能登半島地震で被災している外国人技能実習生の救援と支援に関する日ベトの取り組みについて報告しました。石川県にはベトナム人だけでも四千五百人が働いています。日ベトでは「シンチャオXin chao」（こんにちは）というパンフレットやベトナム語による災害情報紙・パンフを作成して、ベトナムからの労働者に情報を提供し、義捐金募金や現地支援に取り組んでいます。話を伺って、五団体として支援できないかという声も出ました。

集ったのは三十人。

三台の大型の円卓ではそれぞれに交流がたけなわとなり、歌声も聞こえてきたころに、宇治支部会員の大学生・李托さんが「唢呐 suona」(ソナー)の演奏を披露してくれました。唢呐は日本ではいわゆる「チャルメラ」と呼ばれている楽器だが、ペルシャ語の「スールナー」が訛ったもので西方由来であるようです。

二時間の予定が三時間近くになり、最後に日ユ会長の田中宏さんの挨拶で漸くお開きとなりました。各団体はそれぞれパンフやリーフを即売しました。AALAは『東アジアを戦争のない平和な地域にーアセアンに学ぶー』というブックレットを販売。日中も「研究中国」などを販売しました。

会場の「中国魚菜館 天」は高辻通烏丸西入という好立地にありながらまるで商売気のないような店でしたが、料理とお酒は思いのほか美味であって、参加者からも好評でした。

〔注〕平和友好5団体は以下の団体です。日本ユーラシア協会京都府連合会、日本ベトナム友好協会京都支部、日朝協会京都府連合会、京都府アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (AALA)、日本中国友好協会京都府連合会

※左京支部の「春節のつどい」は、二月十日、百万遍の美味しい中華料理・火楓源で行われました。



《中国伝統劇つれづれ》第十回 パンフレット 藤野 真子

劇場に着いたらまずパンフレットを買うという人は多いだろう。筆者もご多分に漏れず、必ず公演パンフレットや関連商品(書籍、音像資料)の売り場へ行く。観劇記録としてはもちろん、情報量によっては、将来、研究資料として使う可能性もある。単純に、美しい写真や装丁を楽しむこともある。

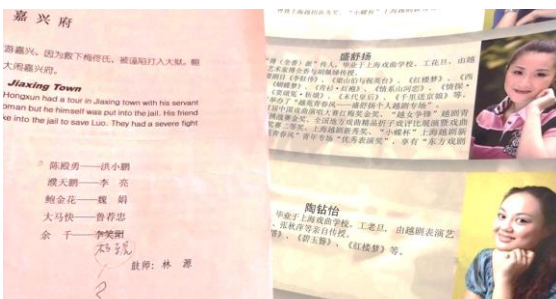
かつて伝統劇の公演では、演目や演者を書いた一枚物の「戲単」が配布されたが、現在は劇団や公演によって実に多種多様な印刷物が供される。ストーリーや俳優について詳細に述べられているもの、場ごとに凝ったセットの写真が掲載されているもの、地方の劇団であれば地元での練習風景や著名人との交流が紹介されているもの、こういったタイプは厚みもあり、なかなか読み応えがある。

一方、その劇場を本拠地とする劇団の定期公演、特に週末の折子戯(見取上演)の場合、A3二つ折り、もしくはA4両面印刷の簡単なものであることが多い。内容も、演目名、キャスト、そして簡単なストーリー紹介が載せられているに過ぎない。言わば、「説明しなくてもよく知ってますよね」という、提供する側の姿勢が如実に表れているのである。なお、当日のキャスト変更も多いので、手元には自筆で訂正したものが何枚も残っている。

この手のものが提供された場合、戯迷(芝居好き)や筆者のような研究者であれば文句は言えない。た

だし、滅多に上演されない緑林戯(任侠もの)であったりすると、ストーリーはおろか、登場人物名を読み取るのも怪しいことはある。また紙幅の関係なのか、ストーリー説明が極めて簡素であるケースは多い。いきおい、目の前で何が上演されているのか、今ひとつ理解できないという情けない状況に陥る。

さて、この簡素なストーリー説明にはもう一つ難点がある。完全な古文(漢文)ではないものの、文語が混じった独特の文体が用いられているのだ。中国文学科出身者の筆者がさじを投げたりしたら恩師たちにどやされること必至だが、会話レベルの中国語学習者であれば相当難儀することだろう。実際、現地の日本人商社マンなのであろうか、上演前に中国語を解さない同行者に解説していたが、案の定「読めて」いかなかった。欧米人ならばなおさら困惑するであろう……と思っていたら、ある時から英文の解説が併記されるようになった。その辺はぬかりない。(ふじの なおこ・関西学院大学教授)



中国伝統演劇
二種類のパンフレット

中国の山旅（15）

西谷仁

蘭州から張掖へ抜けるのに祁連山脈を越えて行った。祁連山脈はシルクロードの南側の山脈でシルクロードの貴重な水源である。住民はイスラム教徒で放牧をしている。行ったのは九月初旬で緑豊かな放草地帯であった。前の日は暖かい気候だったが翌朝起きてみると初雪が降って白一色の世界であった。

山脈を越す道のバスも不通になっていた。どうしようもないので住民の人にたのんで車で張掖まで連れて行ってもらった。山脈を越えると花が咲いているおだやかな世界であった。山の気候の変化の激しいにおどろいた。



コロナ禍の台湾研究活動道中記（第23回） ビザ切り替え手続き（その1）

高橋孝治

陽明山を見た次の日、筆者は再度「移民署」に行きました。台湾政府フェローシップ採択者向けのメールに、「台湾に到着し、隔離期間が経過したら、移民署に行き、ビザの切り替え手続きを行ってください」と書いてあったためです。

筆者なりの理解で台湾のビザ制度を解説すると以下のようになります。台湾に半年以上滞在する予定がある場合、外国の関係機関（日本人の場合、一般的には「台北駐日経済文化代表処」）が発行したビザは、一回入国したら既に効果が失われ、今度は台湾内で「居留し続けるためのビザ」を取得する必要があります。あるとのことでした。

そのため、居留のためのビザの申請をするために移民署に行ったのです。ところが、移民署でかなり長い時間待たされたあげく、言われた言葉は「ここではない」でした。いわく、移民署は「既に居留のためのビザを手に入れた外国人が、住民登録をする場所」であり、居留のためのビザの発行は、外交部のビザセンターで行うものとのことでした。

先に述べた通り、台湾政府フェローシップ採択者向けのメールには「移民署に行つて、ビザの切り替え手続きをせよ」というものでした。どうも、またメールによる案内が間違っているようです。

仕方ないので、移民署で、外交部ビザセンターへ

の行き方を教わり、外交部ビザセンターに行きました。しかし、外交部ビザセンターで言われた言葉は、「居留のためのビザを申請する場合は、健康診断結果も添付しなければなりません。その健康診断は外交部の指定した病院で行わなければなりません」というものでした。健康診断の話などは全く聞いていなかったたので、驚き、とりあえず、外交部が指定しているビザ書類に対応している病院のリストをもらいました。しかし、居留のためのビザ取得のための長い旅はまだまだ始まったばかりでした。(続く)



台北市内・移民署の近くの風景

(2022年台湾フェローシップ採択者・(元)台湾・淡江大学 日本政経研究所 訪問研究員(2022年) / 「高橋孝治 中国」でウェブを検索！)

第五十三回学習・交流会の報告(2/15)

前回に引き続き、第4章 試行錯誤する社会主義の1、調整政策の最後「重化学工業化へのこだわり」の部分では調整政策の下でも核兵器開発が継続され、内地地域に軍需工業基地を建設する三線建設が重視され、一九六四年ころには調整期に重視された農業軽工業の振興策は光景に退いていったと述べられている。次に2、「AA外交の行き詰まり」に入る。

一九五九年から始まっていた中ソ両国の不和は東西冷戦の下でアメリカを利することを警戒して双方とも公然化を避けてきたが、一九六三年に六月に至って、ソ連共産党からの書簡を中国共産党が公開し反論を加えたことによって公然たる論争が始まった。その主な内容は世界戦略をめぐる対立、世界各地の革命闘争の発展を重視する中国と、アメリカとの平和共存を重視するソ連との対立、および国内の社会主義建設の進め方をめぐる対立、社会主義国の中でも政治闘争を強める中国と、全人民の国家たる安定を目指すソ連との対立であった。中国はソ連を修正主義と決めつけ強く非難した。しかし中ソ関係は直ちに破綻したわけではなく一九六四年十月の中国の核実験の成功、フルシチョフの失脚、アメリカのベトナム戦争の介入などの中で中ソは互いに相手の出方を探っていた。

ソ連との対立を深める中で中国は第一中間地帯(アジア、アフリカ、ラテンアメリカ)、第二中間地帯(西欧諸国、日本、カナダ、オーストラリア)との接近を図りはじめた。最初の大きな変化は一九五八年以来中断していた日本との経済関係の再開であった。政府間協定が成立する以前でも民間の契約は

可能との周恩来が示した日中貿易三原則に基づき一九六二年にLT貿易が開始された。また、フランスとの国交も樹立、イタリア、オーストリアなどの西欧諸国との貿易にも力を入れ始める。他方、一九五〇年にチベットに関する中印条約を結び国家間の安定を得ていたインドとの間に一九五九年のチベット反乱に対する中国の強硬な弾圧やパキスタンへの接近などをめぐって中印の関係は急速に悪化し一九六二年には中印国境地帯での大規模な国境紛争が起こった。中国は東部国境では一定の譲歩を示し西部国境では占領を継続するという条件の下で一方的に停戦を宣言した。その背景にはチベットをめぐる中国の事情があったと思われる。

アジア諸国との関係ではネパール、モンゴル、パキスタン、アフガニスタンなどの隣接する諸国との関係改善を進めたが東南アジア諸国との間では一九六〇年ころから緊迫した情勢が生まれた。マラヤ連邦の構想をめぐる、マレーシア、シンガポールとの関係悪化、一九六三年のマラヤ事件によるインドネシアのスカルノ大統領の失脚とインドネシア共産党の壊滅を経てインドネシアは中国との国交断絶にいたるなど。他方一九六三年から一九六四年にかけて周恩来首相はアジアアフリカ諸国を歴訪してアフリカの十二か国との間に外交関係を樹立することに成功している。

この時期の国際情勢は複雑で年表を作って知識を整理しなければとても理解できないものがあり、参加者がそれぞれに宿題を抱えて次回までに知識を整理してくることになりました。

今回は三月二十一日(木) 十三時半より、テキスト

ト、一三六ページ3、「文革への助走」からです。テキストを読むだけでは解決できない問題が次々と現れ、なかなか前に進むことができませんが、それがまた面白い、この学習会の特徴といえるでしょう。途中からでも多くの方の参加をお待ちしています。

(橋本草子)



蘇州・湖棗饅子
大馬画

书呆子 (中国語で「本の虫」という意味)

「ブア・ジャパン」気が付けば「貧困大国」

野口悠紀雄・朝日新書・二〇二三年九月三十日

刊・296P・図表目次7P

表表紙…『経済先進国』から『衰退途上国』へ転落・日本の凋落は食い止められるか。裏表紙…日本が貧しくなった「根本的要因」を鮮やかに示す、とあります。章立てで見ると、第5章が、デジタル化の遅れが日本の遅れの根本原因。第6章が、高度人材を日本に確保できるか？第7章が、日本再生のエンジンとは、デジタル人材、となっています。かつて在職していた大学関係者であり、とりわけ情報理工学部があった関係上、同意できる面と心配がないままの感想です。

昨年十二月二十六日の日経新聞には、「昨年(二〇二二年)の一人当たり名目GDPは日本(3万406

4ドル)・加盟国38カ国中21位)G7で最下位・

円安影響、総額は、世界3位維持との見出しと、OECD

の折れ線グラフで、名目総額では、米国・ドイツ・

イタリア・日本(4兆2601億ドル)となってい

ました。そして、世界のGDPに占める比率は、4・

2%で、二〇〇五年の10・1%から十七年間で半

減したとありました。次に、今年一月二十一日の京

都新聞には、「日本GDP世界4位の公算、二三年現指

標初、独を下回る」とあります。注目する言葉では、

「世界での日本の存在感が一段と低下しそうだ。少

子高齢化が進む中、低水準とされる労働生産性の向

上が課題」とあります。ただ、ドイツ経済も厳しい。

実質GDPは、二三年が、0・3%減となり、マ

イナス成長に陥った」とあります。これに関連して

は、本年一月三日の日経新聞も「ドイツに迫る日本

化」というほぼ1Pの記事と符合しています。なお、

十項目の「数字で見るドイツと日本の対比表は参考

になります。最後に、「日本社会停滞の原因は、日本

社会の基本的な構造にある」とのことに同意できま

すが、その前に、英国の教育研究評価機関のランキ

ングには触れています。日本の大学が社会の要請

に応えた人材育成をしない大きな原因は、企業が高

度専門家を評価しないことだ」……「学生は、勉強

しない」との文脈に留まっていることには同意でき

ません。大学界が、大学の質保証の固有の取り組み

や、ユネスコの高等教育に関する定義や教育構造に

関する到達点に言及することなく、自らの改革の責

任を真摯に受け止めていないように思われるのは誠

わたしと中国 2

ゴキちゃん?

西田 千津

私が清華大学にいたとき、ちょうど、竹島(釣魚島)問題が話題になっていました。大学でも図書館で、その展示がされていたので見に行きました。

実は、私は、すぐ道に迷う人です。しかも、入口までたどりついたとしても、なぜか、閉まっている方の裏口に行ってしまったたりする「運」をもっていきます。この時も、展示の部屋がわからず、探し疲れて、そこにいた大学のの人に聞きました。

「我想看展览。展览是哪里? (展示を見たいのですが、展示はどこですか?)」…ですが、彼は、変な顔をして黙っています。私は何度も、聞きました、結局通じませんでした。

その時は、なぜ男性が変な顔をされていたのか理由がわからなかったのですが、数年たってから、日本語ペラペラの台湾人の友人に、「西田さんは、ゴキブリになってるよ」と教えてもらい、やっとわかりました。展览(Zhan lan)をZhang lang (蟑螂||ゴキブリ)と発音していたのでした!とすると「ゴキブリが見たいのですが、ゴキブリはどこですか?」と聞かされていたわけか! (不定期につづく)



京都府連・帰国者支援部会より

★日中友好協会は、既存の「帰国者支援法」の内容を、帰国者一世に留めず、近年様々な問題が現実起こっている二世にも及ぼすことを骨子とする法案審議の要請を、この2年間行ってきました。

今年度通常国会でも国会議員要請を行うと思われまます。しかし京都の場合は衆参の全議員の中で賛同者は共産党の井上哲士議員と倉林明子議員だけです。そのため早急に京都府選出の全議員に働きかける必要があります。部会員で分担を決め、二世の方々の協力を仰ぎながら、議員への働きかけをと準備を始めています。

★去年も集めていただいたのですが、**日中友好協会は、あきらめずに今年も署名を集めます。**去年、署名していただいた人も、今年ももう一度、どうかご協力お願いします！！

衆議院議長 殿
参議院議長 殿

中国帰国者2世の生活支援等を求める請願署名

中国残留孤児・婦人（以下、「帰国者1世」）の帰国後の生活支援等を行うため、「中国残留邦人等の円滑な永住の促進及び帰国後の自立の支援に関する法律の一部を改正する法律」（新支援法）が成立し、また、その後、中国帰国者1世の配偶者の生活支援等を行うための新支援法の一部改正が行われました。しかし、帰国者1世の子供たち（以下、「帰国者2世」）に対しては、何らの法的支援がなされていません。

多くの帰国者2世は、日本政府が帰国を制限したことによって、高齢になってからの私費帰国を余儀なくされました。日本政府は私費帰国者に対しては就労支援も日本語習得支援も行わなかったため、言葉の壁や高齢により、低賃金の単純な肉体労働の仕事にしか就けず、新支援法が成立する前の帰国者1世と同様に、老後を支える貯蓄も年金もないまま生活保護に頼らざるを得ない状況となっているか、もしくは、仕事ができなくなれば生活保護に頼るしかない状況となっています。さらに、多くの帰国者2世が、日本語でコミュニケーションを取ることができず社会の中で孤立し、憲法25条で国民に等しく保障されている「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」ことが出来ない状況に置かれています。

帰国者2世は日本と中国にルーツがあり日中友好の架け橋になれる大事な存在です。この帰国者2世が人間の尊厳を回復し、日中友好のために活躍できる場を作ることが強く求められています。

以上により、帰国者2世においても、帰国者1世ないしその配偶者と同様に、安定した老後の生活が送れるよう、また、人間の尊厳を回復し社会で活躍できる場を提供するよう、下記事項のと通りの要望を請願します。

記

- 1 国費帰国と私費帰国との区別をすることなく全ての帰国者2世に対し、帰国者1世ないしその配偶者への支援（新支援法）に準じる支援給付金と老齢年金支給が可能となる法改正を行うこと。
- 2 全ての帰国者2世が適正な医療・行政サービスが受けられるように利用施設への通訳人の派遣・常駐を行い、または、希望する帰国者2世に対して通訳機器の貸与を行うこと。
- 3 全ての中国帰国者（残留婦人、残留孤児、帰国者2世、それらの配偶者）の「人間の尊厳」を尊重し回復するため、国と自治体の各関係機関との連携を強化し、柔軟かつ実効的な「就労支援」「日本語学習・文化交流支援」「生活保護受給者への渡航期間制限撤廃」を実現するための法改正または行政運用を行うこと。

★また、日中友好協会では、パンフレット『中国帰国者2世体験』のための原稿を募集しています。字数は500字まで2024年3月末しめきり。中国語の場合、京都府連で中国語に翻訳してから日中本部へ送りますので、3月中頃までに府連までお送りください。中国語の募集要項もあります。体験談を書いていただけそうな帰国者2世をご存じの方、府連までご連絡ください。

【今後の予定】

- ・3/19（火）中国語教室受講生交流会 於 事務所
- ・3/20（水・春分の日）宇治支部 神戸フィールドワーク（くわしくは8頁をみてください）
- ・4/6（土）13:00～16:00 第50期中国語教室開講のつどい
講演：長谷川賢先生（立命館大学准教授・中国語学）
同志社大学今出川キャンパス良心館 RY413



神戸フィールドワーク

日時:2024年3月20日(水・祝) 13:00~

集合場所:JR 三宮駅北出口

訪問予定地:神戸ムスリムモスク、南京町(予定)

解散予定場所・時刻:16:30 南京町



※参加ご希望の方は、3月9日(土)までに、お名前と携帯電話番号(当日緊急連絡用)を明記して下記までお申し込み下さい。(先着20名まで) info@nichukyoto.gr.jp